

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2370200418		
法人名	有限会社ハッピーとくがわ		
事業所名	グループホーム ちから館とくがわ		
所在地	名古屋市東区相生町16-1 (電話) 052-935-7355		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	平成19年8月20日

【情報提供票より】(平成19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年6月2日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算 5.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 2~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(500,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年6月20日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	66歳	最高	87歳
協力医療機関名	名古屋通信病院・とくがわ皮膚科内科クリニック・鉾仁病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ビルが立ち並ぶ国道19号平田町を1本西へ入った場所にホームは建っている。毎日の買物は商店街を利用し、散歩の時には、地域の人が笑顔で挨拶を返してくれたり、花や苗をいただくこともある。開設当所から地域の人々の親切に助けられ、今では『ご近所』として温かく見守ってくれる存在である。都会に見られがちなよそよそしさは無い。ホームのかかりつけ医師である法人代表は、ホーム1階に住居を併設しており、24時間、何かあった場合は電話1本で5分以内にホームに駆けつけてくれる。郊外のホームのように広い庭は確保できないが、隣接する東主税公園がホームの庭代わりとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回『気軽に入れる玄関づくり』を改善点と指摘されたが現在は1枚板にホーム名が、入居者により毛筆で書かれ、周囲を包装紙の花柄を丁寧に切り抜き、貼り付けた上からニスで上塗りされた手作りの看板が掲げられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長は、外部評価を職員の「自己覚知」の機会と捉えており、これを契機に職員がレベルアップすることを期待している。職員は今回の自己評価で、より高い資質が求められると知り、成長の目的が明確になったと積極的に捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族の報告、外部評価について、医療連携体制の経過報告等がなされ、継続的に討議されている。同会議からの提案により、地域交流会を企画し、自治会長と共に町内に案内を配布し、さらに学区の自治会長を招待した。交流会では、ボランティアによる紙芝居が披露され、ホームの内容を参加者に紹介し、集められた感想は今後の運営の参考とした。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会は年2回開催され活発に意見が交わされている。ほとんどの家族が週に1度はホームを来訪するので、その機会に職員及び施設長に直接要望を伝えている。職員の目の前では苦情が書きにくいらしいという配慮から、居住区の無い1階玄関に投書箱を設置している。相談、苦情の外部窓口(市、国保連)については重要事項説明書に明記されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加しており、老人会から行事の誘いを受けている。買い物は近所の商店街を利用し、馴染みの喫茶店に出かけることもある。毎日の散歩で挨拶を欠かさないことで地域住民と交流ができ、散歩の途中では花や苗を頂いたりするようになった。何時も利用する公園は、夏休みになると子ども達が遊びにくるので、入居者は心待ちにしている。30席ほどある1階の会議室は地域に開放され、災害時は地域の防災拠点となる。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念として「生きがい」「安らぎ」「ふれあい」 「信頼」「安心」を掲げ、「ふれあい」につい ては地域住民、ボランティアとのふれあいを大切 にし、連携を取りながら地域に開かれた施設を 目指している。理念は、地域密着への移行前 から定められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日常の会議、ケアプラン 作成時に理念を確認している。言葉だけの 確認ではなく、職員は理念を柱として、実 際の介護のあり方を追求し、理念と自立支 援とを兼ね備えたそれぞれの介護指針を、 理念に沿って確立している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に参加している。目の前にある高 校の生徒が頻りにボランティアに訪れ、正 月にはお餅を頂いた。1階の会議室は、地 域の人に開放され、災害時には地域の防 災拠点として活用される。買い物は、入 居者と共に近所の商店を利用している。 隣人から花、苗を頂くことがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	施設長は評価を「自己覚知」のきっかけ と捉えており、評価により職員が成長す ると積極的に捉えている。職員は今回の 自己評価で、より高い資質が求められる と知り、成長の目的が明確になったと 積極的に捉えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初から、隣人である自治会長が全面的に協力してくれて、運営推進会議が定着した。同会議の提案により地域交流会を開催し、施設内容の説明、ボランティアによる紙芝居を行い、多数の参加者の意見を今後の運営に反映させることができた。会議では、外部評価に関する事項も報告されている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長は就任した当時不明な点が多く、市の介護担当者の所へ相談に訪れた。今でも何か問題があると、すぐに相談に行っている。家族会の報告もしており、市の担当者も丁寧に耳を傾けてくれる。今回、医療連携体制加算の申請の件で、足繁く市役所に通い相談にのって頂いた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今回の家族アンケートで「ホーム便りの送付だけでなく、何か一言書き添えて欲しい」との家族の声を受け、早速手紙を添えることを検討している。多くの家族が週1回以上来訪しており、その時に話を伺うことが多い。多忙で来訪できない家族に対しては、電話で対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回開催しており、家族から活発に意見が出される。その他運営推進会議でも家族代表から意見が出され、運営に活かされている。相談、苦情の外部窓口（市、国保連）については重要事項説明書に明記されている。現在、重要事項説明書を改訂しており、再度、家族に周知徹底することを検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期異動はない。今年ユニット間で一部職員の異動を行った。異動は引き継ぎ期間として、1カ月様子を見ている。異動があれば最初に家族会で報告し、新人紹介としてホーム便りを利用し、すべての家族に紹介している。開所当時の職員も5人ほど在職している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内に勉強会スタッフを設け、季節にあった項目を選定し、2カ月に1度勉強会を開催している。また、職員に看護師がいるので薬や感染症対策等の勉強会を、日常的に実施している。外部の研修会にも積極的に参加しており、参加者は必ず報告会を開催し、資料回覧等で全員の周知に配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名介研（名古屋市介護サービス事業者連絡研究会）、県のグループホーム協会、全国グループホーム協会に加盟している。会合では情報収集、相談を主に参加している。他のホームから、情報の入手先、エスケープ対策等を学ぶなど、大変参考になっている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学はいつでも可能である。体験宿泊の申し込みもあったが、来客があると不穏になる入居者もあり、そのデメリットを考えると実施に踏み切れなかった。入居前には必ず、住環境を視察、確認し入院先、デイサービスセンターなども訪問し、人間関係を築いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	帰る時には「お疲れ様。気をつけてね。」夜勤では、「一人では大変だね。」と入居者が労ってくれる。包丁使いが得意な入居者は、調理を手伝ってくれて、料理を教えてもらうことも多い。入居者は自分の得意な分野で力を発揮して、共に支えあっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室担当者が主に本人の思いを聞きだしているが、何気ない会話の中から、本人を思いを汲み取れるよう、職員は常に意識して対応している。掃除や調理が苦手な消極的だと思われた入居者が、実は短歌や書道に優れた才能があると分かり、今ではその道を積極的に取り組んでもらっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常的に職員が感じたことを書きとめ、それをまとめて月1回ケースカンファレンスに問題点を提示している。各職員のそれに対する書き込みを基に、ケースカンファレンスを開催している。家族カンファレンスを開催し施設長、居室担当、ケアマネジャーが家族に対し、入居者の現状とその対応策の説明、要望の聴取をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し期間は6カ月と設定されているが、月1回のケースカンファレンスで、随時見直しを重ねている。施設長、居室担当者、ケアマネジャー、家族により、入居者の状態を話し合い、実情に応じたより良い介護を目指している。緊急の場合は施設長、看護師、主任、医師と相談して対応している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>7月から医療連携体制加算を受けている。通院、特に年2～3回の健康診断は、家族が直接状態を聞き、関わりを持ってもらうために、原則として家族に付き添いをお願いしている。車の無い方、家族が多忙な方はホームにより通院支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人代表が施設のかかりつけ医なので、入居者は同意の上で、自分のかかりつけ医から施設のかかりつけ医に変更した。医療センターや大きな病院への通院は家族の付き添いを原則とするが、困難な場合はホームで支援しており、情報の伝達など、医療機関との連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の申請に伴い、重度化した場合の指針を定め、可能な限り住み慣れた施設での介護を目指している。重度化した場合の具体的支援内容を明記し、施設の医療連携体制につき説明している同書面に、全家族の同意を得ている。具体的な重度化、終末期の実例はまだ無い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前で、個人の情報やプライバシーに関する話をしないように漏洩防止に努めている。風呂や居室の出入り、話し方にも個人の尊厳を守るように施設長は職員に常に話している。個人情報各階のステーションで保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は野菜づくりや台所の手伝い、俳句づくり等、趣味や好きなことをその人のペースで行っている。毎晩、晩酌を楽しむ方もあり、居酒屋に出かけたりしている。男性入居者の銭湯に行く計画も考えているが、男性スタッフが1名ということもあり、考慮中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に好みの献立を聞いて作ることもある。調理や片付けは本人の気持ちに合わせ職員と一緒にしている。糖尿病、高血圧の方がおり、家族の意見を聞き調理法や量で調節している。入居者と職員は同じものを楽しみながら食べている。介助の必要な方にも話しかけをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日13時半から18時まで（日曜日は原則足浴）で毎日の入浴を勧めている。希望により1日おきの方もいるが、最低週3回は入浴していただいている。1番風呂希望者が数名おり、職員が上手に調整している。失禁の場合はその都度、入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や園芸、掃除など、生活歴を活かし、その人のペースで楽しみながら行っている。書道も多くの入居者が楽しんでいる。外出も散歩もその方の状態に合わせて、支援している。縫い物が達人だった方は、疲れないように、自分のペースで暖簾を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩や近所へ買い物に行く方もいるが、喫茶店や外食へもよく出かけ、皆が平等に行けるように日程の調整をしている。季節に合わせて、花見やピクニックなどが計画され、その楽しい模様は、写真としてホーム掲示板に飾られている。毎年、1泊温泉旅行を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、日中は開放されているが、夜間は防犯のため施錠している。外出傾向のある方の気配やくせを職員は理解し、素早く対応している。近所の店の方が声かけや連絡をしてくれる。フロアのチャイムセンサーは夜勤や朝の職員数が少ない時に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署が来て一緒に訓練している。その際、地域住民と一緒に参加してくれるよう声をかけている。消火器点検を行っており、避難路も確保されている。非常用食料は4日分を目標に備蓄が進んでおり、賞味期限が切れた物を順次入れ替えている。資格者2名により、防災管理されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養摂取量は糖尿病の方で1200～1400Kcal、健常者で1400～1600Kcalを目安に調理している。水分は朝昼夕食後、その他入浴後、おやつ時に合計必要量(1000cc)を摂取している。必要量がとりにくい人はチェック表を作り管理している。浮腫のある方は、毎日体重を測定している。		栄養摂取量について大まかに把握しているが、今後、年に数回でも専門家に1日の必要摂取量、栄養素のバランスなどのアドバイスを受けていくことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には入居者の書道作品やオクラを押花にした花束の絵など季節感のあるもの、外出時の写真などが掲げられ、いつでも眺めて楽しめるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのタンスやイスを置き、ご主人や孫の写真を飾ったり、時計やテレビを置くなど居心地よく過ごせる居室になっている。窓辺に植木を置いて育てている方もある。		

は、重点項目。

WAMNETに公開するには、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。